

令和6年度版 小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」のご使用にあたって、あかつき教育図書の教科書から採択変更となりました場合、以下の教材が重複することになります。

移行措置資料（指導者用資料／児童用差し替え教材）をご用意いたしましたので、適宜ご活用くださいますようお願い申し上げます。

06版 光村図書	移行措置	理由
2年 P.68 ～ P.71 「15 およねいりすさん」	「ジャングルジム」に差し替える。	02版 あかつき教育図書 1年に「およねいりすさん」が掲載されており、教材が重複するため。

ジャングルジム

【内容項目】C 公正、公平、社会正義 【主題名】だれに たいしても

ねらい

ねこを仲間外れにしようとするくまや、仲間外れにされて悲しむねこ、疑問を抱くさるのやり取りなどを通して、誰とでも仲よくすることについて考えさせ、好き嫌いにとらわれず接しようとする判断力を育てる。

ねらいとする道徳的価値について

「C 公正、公平、社会正義」は、道徳が「特別の教科 道徳」として教科化された、2017年（平成29年）の学習指導要領改訂にあたり、低学年にも設けられた内容項目である。

人間は、自分と異なる感じ方や考え方、多数ではない立場や意見に対して偏った見方をしたり、自分より弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっているといわれる。しかし、集団や社会がよりよくあるためには、それぞれがそのような弱さを乗り越える必要がある。

人によって態度を変えてしまうような弱さを

乗り越え、周りの人に公正、公平に接しようとする判断力を育みたい。

授業の導入とてびきの分析

授業の導入

あなたは、みんなと なかよく できているかな。

普段の生活の中で、特定の仲のよい友達以外の人も仲よくできているかを想起させる導入である。発表はさせず、自分自身の中でしっかりと振り返ることができればよい。ただし、時間をかけないと思いつくのが難しいので、児童には事前に投げかけ、カードなどに具体的な場

面を書き出すよう指示しておいてもよい。自分も人によって態度を変えてしまうことがあるという問題意識をもたせたうえで、学びのテーマを提示する。

考えよう・話し合おう

だれとでも なかよく することについて、考えましょう。

1年生の児童にとって、誰とでも仲よくすることは、再三指導されてきたことであり、頭では理解できているはずだ。しかし、自己中心的な考えから、「〇〇さんとは遊びたいけど、△△さんとは遊びたくない。」とってしまうこともあり、分け隔てない態度を必ずしも実践できているとはいえない。

本教材では、登場する3匹の動物の言動や気持ちを、児童自身の体験と重ね合わせて考えさせるようにする。分け隔てなく接することの大切さとともに、「どうして仲よくできなかったのか。」「どうすれば仲よくできるのか。」についても考えさせ、分け隔てなく接しようとする判断力を育てていきたい。

●②で、くまさんは、どんな気持ちで「ねこさんは、ちがうところで あそんでよ。」と言ったのでしょうか。

自分の好き嫌いで行動をしてしまったくまさんの自己中心的な気持ちを押さえる発問である。

くまさんと自分の経験を重ねて考えさせることで、つい人によって態度を変えてしまうことや、友達を独り占めにしたい気持ちに気づかせたい。また、補助発問をして、ねこさんの悲しい気持ちやつらい気持ちも捉えさせたい。

●④で、くまさんは、どんなことを 思っていたでしょう。

本時の学びのテーマである、誰とでも仲よくすることについて、くまさんの立場から考えさせる発問である。

自己中心的な考えから、つい自分の好き嫌いで行動をしてしまったくまさんは、仲よしのさるさんにその行動を非難され、今度は自分が独

りぼっちになってしまう。そこで、自分の行動を見つめ直したであろうくまさんの気持ちを考えさせたい。

●⑥では、みんなで なかよく あそんでいすね。⑤で、どんなお話を したからだと思いますか。くまさん、さるさん、ねこさんに なって、えんじてみましょう。

役割演技を通して、それぞれの立場から、誰とでも仲よくするために大切なことについて考えさせる発問である。

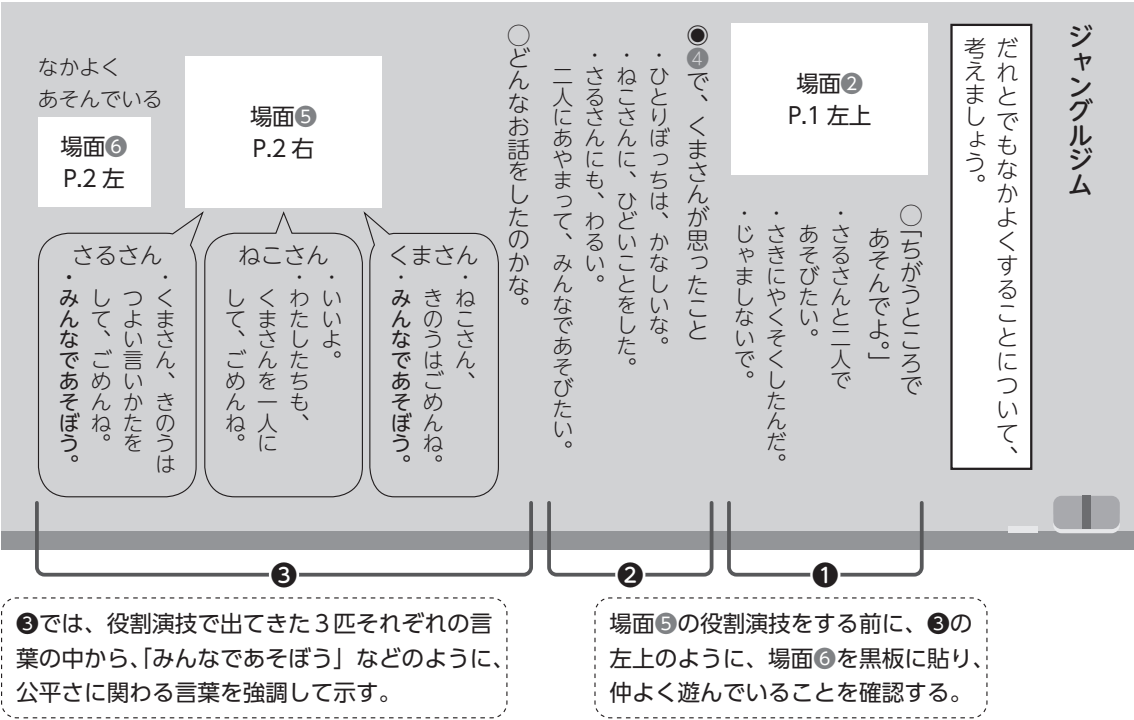
場面⑤のせりふのない空欄の吹き出しを見せて、どんなことを話したのかを考えさせる。その際、先に場面⑥では3匹が仲よく遊んでいることを確認しておき、このように仲よく遊べるようになるまでに、どんな話をしたのかという方向性を示しておくといよい。

この発問においては、くまさんが謝り、3匹が仲よく遊ぶようになることを基本の流れとするといえよう。まずは、さるさん役を教師が、くまさんとねこさん役を児童が演じて役割演技を行い、次に、さるさんも含めて3匹の言動や気持ちを児童から自由に引き出すようにする。

授業の展開例

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
1	▶自分の友達との関わり方を振り返る。 ○あなたは、みんなと仲よくできていますか。 ・できている。 ・席替えのとき、「○○さんじゃなくて、□□さんの隣がよかったな。」と思ったことはある。 ・仲よしの友達とだけ遊びたいと思うよ。 考えよう・話し合おう だれとでも なかよく することについて、かんがえましょう。	・自分が、人によって態度を変えてしまったことがないかを意識させる。発表はさせなくてよい。 主体的な学び 考える時間を確保しないと、児童は感覚的に「仲よくできている。」と答えてしまいがちなので、事前に問いかけ、カードなどに書き出させておいてもよい。
2	▶「ジャングルジム」を読んで、話し合う。 ①②で、くまさんは、どんな気持ちで「ねこさんは、ちがうところで あそんでよ。」と言ったのでしょう。 ・僕は、さるさんと二人でだけで遊びたい。 ・僕が、先にさるさんと遊ぶ約束をしたんだ。 ・昨日から、僕はさるさんと遊んでいたんだ。じゃましないでよ。 ・ねこさん、勝手に遊びに入ってこないで。 補助発問 ねこさんは、どんな気持ちでしょう。 ・どうして、いっしょに遊んじゃいけないの。 ・仲間外れにされて悲しい。 中心的な発問 ②④で、くまさんは、どんなことを思っていたでしょう。 ・独りぼっちになってしまって、悲しい。ねこさんも、こんな気持ちだったのかな。 ・僕は、ねこさんにひどいことを言ってしまったんだな。 ・さるさんも困っていたな。悪いことをしてしまった。 ・二人に謝って、みんなで遊びたいな。 ③⑥では、みんなで仲よく遊んでいますね。⑤で、どんなお話をしたからだと思いますか。くまさん、さるさん、ねこさんになって、演じてみましょう。 くまさん：ねこさん、昨日は仲間外れにしちゃって、ごめんね。みんなで遊ぼう。 ねこさん：いいよ。私たちも、くまさんを一人にしちゃってごめんね。 さるさん：僕も、強い言い方をしてごめんね。でも、仲間外れはいけないよ。仲直りしてみんなで遊ぼうよ。	・くまさんの立場から、自分の好き嫌いで態度を変えてしまうことや、友達を独り占めにしたい気持ちに気づかせる。 ・①で、くまさんは、ねこさんに「なかまに 入れて。」と言われたときにも強い口調で拒否していることを確認してから考えさせる。 ・ねこさんの気持ちについて補助発問をし、仲間外れにされると悲しい気持ちになることを押さえると、発問②が考えやすくなる。 ・くまさんの立場から、誰とでも仲よくすることについて考えさせる。 ・発問①の補助発問と結び付けると、ねこさんに対するくまさんの気持ちが考えやすくなる。 ・③の困った表情のさるさんに着目させ、さるさんへの気持ちも引き出し、自分の言動が集団にどのような影響を及ぼしたかについても考えさせる。 ・役割演技を通して、誰とでも仲よくするために大切なことを考えさせる。くまさんが謝って、みんなで遊べるようになるという流れを基本に、児童の自由な考えを引き出す。 対話的な学び 演技を見ていた児童に、見ていて感じたことや考えたことを発表させる。その後、演じた児童にも、演じながら思っていたことを発表させて意見を交流させる。 ・補助発問として、3匹で遊んでいるときの気持ちを問い、分け隔てなく接することのよさを考えさせてもよい。
3	▶本時の学びを振り返る。 ○今日の学びを振り返りましょう。	・教科書の巻末「学びのきろく」に、「学びのきろくシール」から、当てはまるものを選んで貼るように促す。

板書計画



評価の視点

本時の指導の中心は、誰とでも仲よくすることについて考えさせることである。そのために、学習の中心として、「④で、くまさんは、どんなことを思っていたでしょう。」と、仲間外れにされたねこさんの泣いている姿を見つめるくまさんの気持ちに自我関与させる中心的な発問を投げかけている。最も重視すべき評価の視点は、「好き嫌いにとらわれず接しようとするものの大切さについて考えているか」ということになる。

こうした学習状況を把握する主な方法としては、中心的な発問に対する児童の発言、発言に対する問い返しへの応答、役割演技での発言の把握などが挙げられる。

道徳科の特質から見た、その他の評価の視点

- ◆道徳的価値の理解：誰に対しても同じように接することのよさや大切さ、その難しさに気づいている。
- ◆自己を見つめる：普段、誰とでも仲よくしているか、仲間外れなどをしていないかと、自分を見つめている。
- ◆多面的・多角的に考える：それぞれの登場人物の立場から、誰とでも仲よくすることの大切さや難しさについての考えを広げている。
- ◆自己の生き方について：仲間外れにすることなく、誰とでも仲よくするために、どんなことを大切での考えを深めるにすればよいかを考えている。

令和6年度版 小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」のご使用にあたって、あかつき教育図書の教科書から採択変更となりました場合、以下の教材が重複することになります。

移行措置資料（指導者用資料／児童用差し替え教材）をご用意いたしましたので、適宜ご活用くださいますようお願い申し上げます。

06版 光村図書	移行措置	理由
6年 P.179～P.183 「31 ぼくの名前呼んで」	「祖母のりんご」に差し替える。	02版 あかつき教育図書 5年に「ぼくの名前呼んで」が掲載されており、教材が重複するため。

祖母のりんご

【内容項目】C 家族愛、家庭生活の充実 【主題名】家族のために

ねらい

今の祖母にとまどいながらも、昔の優しい祖母を思い出して涙する「わたし」の姿などを通して、家族とはどんなものかを考えさせ、家族を敬愛し、家族のために自分にできることをしようとする心情を育てる。

ねらいとする道徳的価値について

児童が、共に時間を過ごすことの多い家族と築く家庭は、児童にとって生活の場であり、心を安らげる団らんの間でもある。そこでは、家族どうしの温かい信頼関係があり、子どもが愛情をもって保護され、育てられていることが望ましい。

家族どうしが温かい信頼関係を築くためには、互いの立場を尊重しながら、家庭生活に貢献しようとする意識が欠かせない。児童が自分なりにできることを見つけ、家族のために役立つことの大切さを実感できるように指導をしたい。

授業の導入とてびきの分析

考えよう・話し合おう

「祖母のりんご」から見えてくる家族とは、どんなものだろう。

「わたし」は、教材前半では、自分の感情のみを優先させてしまい、祖母につらくあたってしまう。しかし、教材後半では、家族の存在の大切さに目が向き、祖母への思いを新たにしている。この変容を捉えながら、「自分にとって家族の存在とは、どんなものなのか」「家族のためにできることは何か」を考えさせたい。

なお、児童によって家庭の事情はさまざまであるため、指導にあたっては十分な配慮が必要

である。無理に個人の家庭の様子を発表させたり、引き出そうとしたりしないよう注意する。

●「朝子、悪かったな。（中略）おばあちゃんは、お父さんのお母さんなんだ。」（1 ページ26 行目～2 ページ1行目）と、父から言われたとき、「わたし」は、どんなことを思ったでしょう。

父の、祖母を大切に思う気持ちを知ったときの、「わたし」の心情を捉えさせるための問いである。

「わたし」は、自分のお気に入りの膝掛けを汚されたり、水筒に勝手に花を生けられたりしてしまったことから、家族である祖母を思いやったり、敬愛したりすることができず、怒りをぶつけてしまう。しかし、父は祖母に自分のことを忘れられてしまっても、家族として大切にしたいという思いを言葉と態度で「わたし」に伝えた。

児童も「わたし」のように、一時の気持ちで家の人に文句を言ったり、兄弟や姉妹と言い争ったりした経験はあるだろう。「わたし」の言動に共感しながら、父の言葉を受けて「何も言えなくなってしまっ」た「わたし」が、これまでの言動を振り返ってどんなことを思っているのかを考えさせたい。父の言うことを頭では理解しつつも、祖母に対する怒りも消し切れないであろう複雑な心の内にまで踏み込めるとよい。

●「今度はわたしの番だからね。」という言葉には、「わたし」のどんな思いがこめられているでしょう。

本時の学びのテーマである、「祖母のりんご」から見えてくる家族とはどんなものか、を考えさせるための発問である。

これまで愛情を込めて接してくれた祖母の姿を思い出し、敬愛の気持ちを高めている「わたし」が、家族の助けが必要となるであろう祖母のこれからの生活を支えていこうと決意していることを捉えさせる。

児童から、「今度は自分が祖母を助けてあげるんだ」という思いであることを引き出すのは

容易だろう。そこから児童の考えを深めさせるために、「どうしてそう思ったのかな。」「どうしてそうすることが大切なのだろう。」と問い返しをしていき、考えを掘り下げたい。

つなげよう

君は、家族のために、どんなことができるかな。

「祖母のりんご」を通して考えた、家族のために自分にできることをしようとするものの実践に向け、意欲を高める投げかけである。

「家族のために自分ができること」の他に、どうしてそれが家族のためになると考えるのか、ということまで考えさせ、ノート等に記述させる。ここでの家族は、父母や祖父母に限らなくてもよい。児童にとっての家族は、兄弟姉妹や親戚、ペットなども含まれるだろう。児童が家族だと思ふ相手を対象として考えられることを伝え、全ての児童が活動に取り組めるようにする。

他の教育活動や現代的な課題等との関わり

・福祉に関する教育

授業の展開例

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
1	▶自分の家族について振り返る。 ○家の人が、あなたに言ったことやしたこと、「ありがたい」「うれしい」と思ったことや、反対に、「嫌だな」と思ったことはありますか。 ・褒められたときは、うれしい。 ・何度も注意されると嫌になる。 ・勝手なことをされたときも嫌だ。	主体的な学び 家族にされてうれしかったこと、嫌だったことを想起しておくことで、主人公の家族に対する複雑な気持ちを共感的に受け止められるようにする。
	考えよう話し合おう「祖母のりんご」から見えてくる家族とは、どんなものだろう。	
2	▶「祖母のりんご」を読んで、話し合う。 ①「朝子、悪かったな。（中略）おばあちゃんは、お父さんのお母さんなんだ。」（1ページ26行目～2ページ1行目）と、父から言われたとき、「わたし」は、どんなことを思ったでしょう。 ・父は、おばあちゃんのことを大切に思っているのだな。 ・それでも、私は、おばあちゃんに膝掛けを汚されたり、水筒に勝手に花を生けられたりして、とても嫌だった。 ・おばあちゃんに、つらく当たりすぎてしまったかもしれない。ひどいことをしただろうか。 中心的な発問 ②「今度はわたしの番だからね。」という言葉には、「わたし」のどんな思いが込められているでしょう。 ・熱が下がったら、今度は私がおばあちゃんの世話をしあげよう。 ・小さい頃、おばあちゃんは私に優しくしてくれた。今度は私がおばあちゃんに優しくする番だ。 ・祖母に冷たくしてしまったことを反省して、これからは、祖母を支えていきたい。 ・祖母が、安心して私のことを頼れるようになろう。 ・祖母を大切にすることは、家族みんなを幸せにすることになる。 ・自分をこれまで支えてきてくれた家族を大事にして、今度は、私が家族を少しでも支えられるようになりたい。	・祖母に対していら立ちを募らせていた「わたし」が、父の言葉をきっかけに、家族にとって祖母はどのような存在なのか、改めて考え、思い悩む姿を捉えさせる。 ・「私は、父の言葉に、何も言えなかった。」（2ページ2行目）に着目させ、複雑な「わたし」の心の内を考えさせる。 ・かつてのように自分を看病してくれている祖母の姿を見て「わたし」が感じたこと、考えたことを通して、家族とはどのようなものかを捉えさせる。 ・「今度はわたしの番だからね。」とは具体的に、誰に、どう働きかけることなのか、それは、家族に対してどのような考えをもったからなのかまで考えさせる。 対話的な学び グループで話し合い、感じたことや考えたことを共有することで、「わたし」の言葉には、自分のこれまでの態度に対する反省や、祖母への思い、家族に自分はどう関わっていききたいかなど、さまざまな思いが込められていることに気づかせる。
3	▶「つなげよう」を読む。 ○あなたは、家の人のために、どんなことができると思いますか。 ▶本時の学びを振り返る。 ○今日の学びを振り返りましょう。	・「つなげよう」については、本資料(2)ページを参照。 ・教科書の巻末「学びの記録」の一言感想の欄に、考えたことを書くように促す。

板書計画

○家族があなたに言ったことやしたこと
ありがたい・うれしい
いやだ・おもしろくない
・ほめられた。
・注意された。

祖母のりんご

「祖母のりんご」から見えてくる家族とは、
どんなものだろう。

○朝子、悪かったな。～おばあちゃんは、お父さんのお母さんなんだ。」
お父さんは、おばあちゃんのことを大切に思っている。
それでも、おばあちゃんにされたことは、いやだった。
おばあちゃんに、ひどいことをしてしまっただろうか。

●「今度はわたしの番だからね。」
これまで、おばあちゃんがやさしくしてくれた。
← おばあちゃんに支えられてきた。
これから、おばあちゃんにやさしくする。
安心してたよれるような自分に。

・祖母を大切にすること。
・家族みんなを幸せにすること。
← ○家族のために、自分ができること。
・みんなにやさしくする。
・家のお手伝いをする。

③では、あらかじめ児童の反応を予想しておき、発言の広がりに応じて、意見を整理しながら板書するとわかりやすい。

①に、導入として、自分の家族について振り返らせたことを簡単に板書しておく、授業後に、自分の家族への思いの深まりや変化がわかりやすくなる。

評価の視点

本時の指導では、「家族とはどんなものか。」を考えさせることが中心となる。そこで、主人公の「わたし」（朝子）に自我関与させ、「わたし」の「今度はわたしの番だからね。」という言葉には、どんな思いが込められているのかを中心的な発問で問うている。よって、最も重視すべき評価の視点は、「家族を敬愛し、家族のために自分にできることをしようとする事について考えているか。」ということになる。

こうした学習の状況を把握する主な方法としては、中心的な発問に対する児童の発言、発言に対する問い返しへの応答、ワークシートなどの記述、グループによる話し合いの状況の把握が挙げられる。

道徳科の特質から見た、その他の評価の視点

- ◆道徳的価値の理解：家族の大切さと、それぞれが家族の一員としての役割を果たし、支え合うことの大切さについて考えている。
- ◆自己を見つめる：家族に対してどのような態度で接しているか、自分を見つめている。
- ◆多面的・多角的に考える：家族を大切に思うときと、そう思えなくなってしまうときの両方にふれたうえで、家族と温かい関係性を築くために大切なことについて考えを深めている。
- ◆自己の生き方について：これから自分は、家族に対してどんな思いをもち、どんなふうに関わっての考えを深める。いこうかと考えている。